

生活 日月火水木金土

働く健康
介護・シニア
子育て
衣食住

家族

生まれつき耳が聞こえない私ですが、不幸だと思ったりとは一度もありません。ろうであることはむしろ、私の個性、強みだと思っています。父と一歳上の兄は、私と同じように生まれつきのろう者。母は病気で八歳のときからろうです。普通に耳が聞こえるのは、四歳上の長兄だけという一家に生まれました。父母は徳島市内で理容店を営



ろうの女性牧師 郡美矢さん



こおり・みや 1970年徳島市生まれ。米国の大学院修了。現地で牧師資格を取り、世界各国で奉仕活動を経験。2006年から広島市内など2カ所の教会牧師。障害がある高齢者らを支える。国際手話通訳者としても活躍。メッセージ集「あなたは見えないところで愛されている」(KADOKAWA)を出版。

負けず嫌いは母譲り

んでいて、子どものころは家の中がいつもにぎやかでした。といってもおしゃべりするのではなく、手話で冗談を言い合っては笑うのです。一緒に遊んだいとこや兄の友達も全く普通に接してくれたので、私はかなり大きくなるまで、自分が障害者だと意識しませんでした。母方の祖父は医師。母も医師を目指していましたが、ろ

う者は医師になれないという決まりが当時はあり、あきらめたそうです。努力家で勉強が得意な母は教育に厳しく、私にできることが、あなたにできないはずはない」「聞けないのをできない理由にしてはいけない」と言われ続けたことありませんでした。小学生時代から、テストは九十点以上でないと納得しません。理科が七十九点だった

してくれました。ただ、学校側は「前例がない」と反対。母が先生方を説き伏せるのに二年かかりました。とうとう根負けした先生方が「挫折しても責任は取れない」と言うのと、母は「全部責任を持つ」と断言。横で聞いていた私は、同時に私も責任を持つことだと理解しました。

小学六年で転校して一般の中学、高校へ進学。高校では学校初の女子柔道部員となり全国大会に出場しました。その後英語も分らないのに海外へ、などとむちゃを重ねてきましたが、すべては「前例がないなら自分が前例に」との決意が原動力となりました。厳しく、また優しく、自分を信じる力を与えてくれた両親には感謝しきれません。二人とも、ろうであるのを誇りに生きてきたからできた教えでしょう。社会人になった後「私を産んで良かった？」と母に聞いたことがあります。

母は「美矢というすてきな子がろうで生まれてきてくれ、ありがと」と心から思っているよ」と言ってくれました。

聞き手 白鳥 龍也
写真 北村 彰